

I. 地区の概要

当地区は、福井県越前町(旧宮崎村)西部の城山と若須岳の東に開けた谷間に位置し、四方を山に囲まれ熊谷川を取水源とする穀倉地帯で、清澄な水が流れる河川にはサンショウウオやヤマメが生息しており、また、地域内には、六古窯の一つである越前焼の窯跡群が残る、自然環境と文化遺産に恵まれた歴史ある地域である。

また、平成 27 年度～29 年に福井ふるさと茶屋整備事業により古民家の改修や活動拠点の整備等に取り組み、古熊谷あたらしい村づくりを目指し、地域コミュニティの形成による農業用施設と農村環境の保全に取り組んでいる。

◇活動内容	農地維持	◇取組面積	田	8.22ha
	資源向上（共同）		畑	0.29ha
	資源向上（長寿命化）	◇集落数	1 集落	
◇組織の構成員	農業者	9 名		
	農業者以外	23 名		
	参加団体	7 団体	自治会、老人会、婦人会、営農組織、学校、NPO 法人、福井宮崎土地改良区	

II. 主な取り組み

【農地維持】

◆当集落の営農は、集落で話し合いを行った結果、営農法人と認定農業者に集積し行っている。特に、古熊田では、水と環境を活かした有機農法を行ったことで、絶滅危惧種のハッチョウトンボやホタルをはじめ多様な生き物が多く生息するようになった。



◆水路や農道等の保全及び獣害対策活動は、集落ぐるみで実施するとともに、「福井ふるさと茶屋整備支援事業(H27-29年度)」、NPO 法人フィールドミュージアム文化研究所による基本構想「古熊谷あたらしい村づくりを目指して」の提案をきっかけに、京都外国語大学の博物館学芸員課程の学生が地域住民と協働し、草刈り・泥上げ・法面への防草シートの設置等の活動を行っている。

【資源向上（共同）】

◆築 140 年の古民家を改修した「くまカフェ」を地域交流活動の拠点に、里山の価値を再発見することを目的とし、地域住民と学生が協働で、子供を対象とした田んぼビオトープ等でハッチョウトンボやホタルの観察会、あぜ～ロードへの紫陽花や桜等の植栽と維持管理を行っている。



◆ホタル観察会には、約 100 名の参加があり環境教育の場として定着している。

◆地域の子供対象に、学生も参加し、米づくり(田植え・管理作業・稲刈り)や、遊休農用地を「くまだん畑」とし、玉ねぎ等の野菜づくり体験を行っている。収穫した野菜は、地元の婦人が郷土料理を学生に伝授し地元住民に振る舞っている。

【資源向上（長寿命化）】

◆広域活動組織が集落要望を基に作成した 5 年計画に基づき実施している。